

第1回「中部トラック輸送適正取引推進パートナーシップ会議」議事録

1. 開催日時 平成20年7月11日(金)
14:00～16:00
2. 開催場所 名古屋市中区三の丸2丁目2番1号
中部運輸局11階運輸会議室

3. 概要

(1) 中部運輸局長挨拶

パートナーシップは、縦の関係を横にするようなものではないか。

(2) 各委員からの主な発言内容(要旨)

[中部トラック協会伊藤委員]

業界としてサーチャージの導入が進んでいないのが現状である。現在会員は2455社その内サーチャージの届出をした事業者は55社程度であり、導入は進んでいない状況である。

トラック運送事業は、安全と環境が事業者に課せられた最大の使命である。

このような状況の中でも、経営環境が良くなっていくよう、窮地を理解していただき、ご理解とご支援をお願いしたい。

[郵船航空ロジテック杉山委員]

航空業界では、古くからサーチャージ制を導入している。しかし、消費者への転嫁となると難しい。説明のあった「宣言」の中に盛り込めればうれしい。航空貨物のサーチャージは、海外へ出す方は理解をしている。

[名海運輸作業山本委員]

「宣言」については非常によいことである。海コンの事業に携わっているが、外国貨物はサーチャージがついてくることもあり、荷主も理解がある。が、現実には厳しい。

軽油価格は、130円を突破して140円も間近である。追い詰められている状況である。

[トヨタ輸送手塚委員]

当社は、トヨタ自動車の完成車を輸送している。

事業を行う中で、安全の確保は第一であり、環境への配慮も世の中の要請である。

人材の確保が難しい中で、燃料の高騰が追い打ちをかけている状況。

物流は、認知がされにくい業界である。物流のあるべき姿を求めていくべきである。

[岡村運送岡村委員]

協同組合で帰り荷の斡旋をやっている。運賃は非常に安い。

野菜等食品関係の流通は非常に厳しく、料金も上げてくれない。コンビニ配送も同様である。

タイヤ価格等も上昇しており、車両価格も上昇する見込みとなっている。物量も頭打ちで、輸送量も落ちてきている。

[名古屋商工会議所成田委員]

会員会社も原材料の高騰で収益は圧迫されている状況。業績も悪化している。

それぞれ個別の交渉になるため厳しい状態。名古屋の高速料金は高い。深夜割引も行われているが、どれだけ利用されているのか。中小企業は利用していないのではないか。

[トヨタ自動車松下委員代理]

物流の形態は複雑である。環境への配慮、CO2の削減等は物流事業者でないと出来ない。事業者も走行ルートの改善、エコドライブに取り組む必要がある。生産性向上へも努力が必要であり、議論に加えてほしい。

[中日新聞渡部委員代理]

平成2年の規制緩和以降、過当競争で中小が増えている。なぜ、淘汰されないのか。消費者としては、宅配便の料金は値上がりしていないし、サービスもいい。

[藤原自動車交通部長]

平成2年の規制緩和で許可制へ、車両数も5両に下げた。事前チェックから事後チェックへの転換。緩和当時は、強いところが生き残っていくと思われたが、事業者数は増えた。業界の構造の多層化が浸透してきた。

[運輸労連森田委員]

会議を開催することは歓迎する。対等な場所で議論を行ってほしい。荷主も非常に厳しい状態にある。